

3. クレマチスの長日処理による開花期延長効果

[要約]

クレマチスの、‘マダム・バン・ホーテ’や‘クリムソン・キング’は長日処理によって周年開花が可能であり、‘ザ・プレジデント’は2～3月の約2か月は開花しないものの長日処理によって開花期間を延長させることが可能である。

研究室名	野菜・花研究室	連絡先	0869-55-0271（内線235）
------	---------	-----	---------------------

[背景・ねらい]

クレマチスは、4～10月に出荷されており、長期出荷を図るためには晩秋から早春にかけての開花技術の確立が必要である。そこで、長日処理による開花期延長効果の検討を行い、周年開花を行うための基礎資料とする。

[成果の内容・特徴]

1. 3品種とも2年生株（挿し芽後育成1年）を用いた。
2. 本試験では、全区とも10月下旬～翌5月下旬の期間に栽培夜温10℃で加温し、長日処理区では、8月下旬～翌5月下旬の期間に22時～翌4時まで電照処理を行った。3品種とも長日処理を行うことで、開花期の延長が可能であった。
3. 電照効果には品種間差が見られ、‘ザ・プレジデント’は2月中旬～3月末までの期間に萌芽・伸長・開花が見られなかったものの11～2月中旬まで開花させることができ、自然開花の4～10月と併せ4～翌2月までの連続開花が可能であった（図1）。「マダム・バン・ホーテ」と「クリムソン・キング」は、11～翌3月末まで開花させることができ、自然開花の4～10月と併せ周年開花が可能であった（図2、3）。
4. 4月以降の自然開花期では、全体的に3品種とも無電照区が切り花長でやや優れている傾向にあった（図1、2、3）。

以上の結果から、‘マダム・バン・ホーテ’‘クリムソン・キング’は長日処理によって開花期間を延長させ周年開花が可能であり、‘ザ・プレジデント’は2～3月の約2か月は開花しないものの長日処理によって開花期間を延長させることが可能である。

[成果の活用面・留意点]

1. ‘ザ・プレジデント’の萌芽・伸長には、日長以外の要因も考えられる。
2. 本試験より電照効果に品種間差が見られるため、本試験で供試した品種以外については電照効果を検討する必要がある。
3. 3年生株以降の成長株については、切り花品質や切り花本数を検討する必要がある。

[具体的データ]

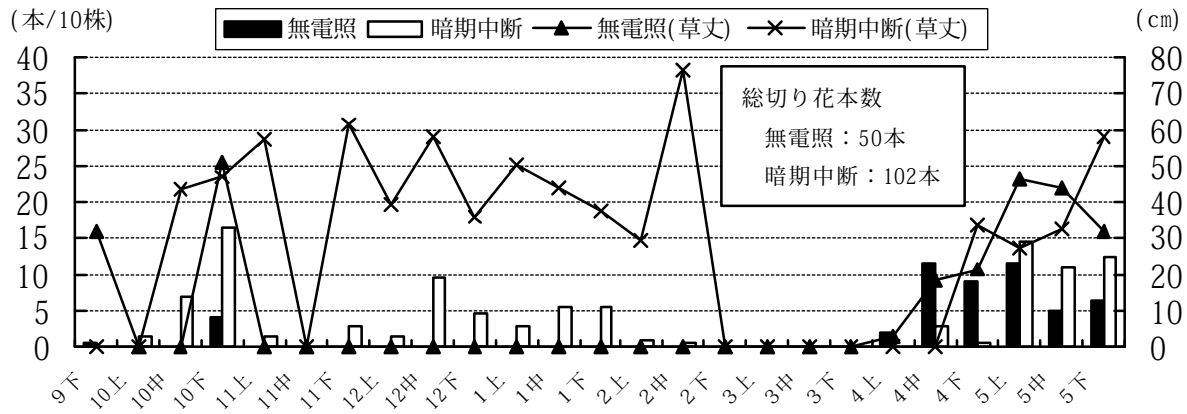


図1 ‘ザ・プレジデント’の切り花本数と草丈の推移

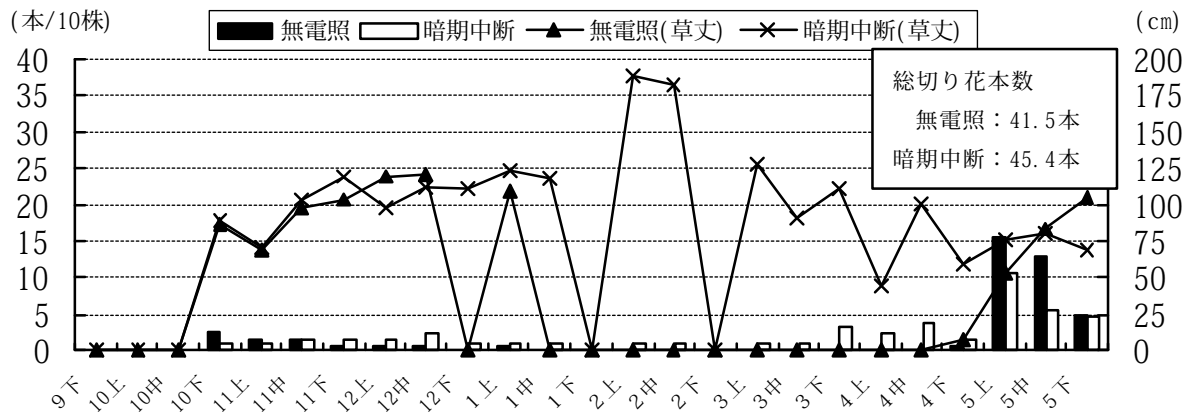


図2 ‘マダム・バン・ホーテ’の切り花本数と草丈の推移

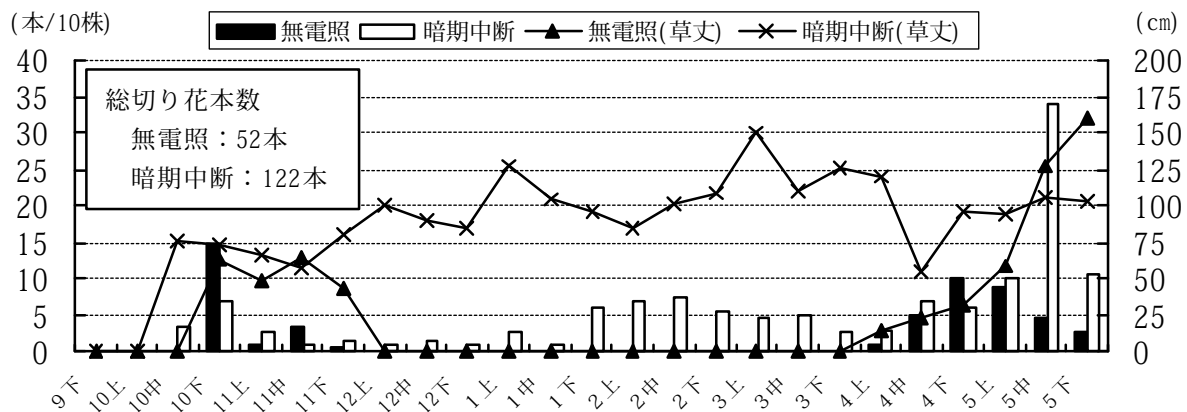


図3 ‘クリムソン・キング’の切り花本数と草丈の推移

[その他]

試験研究課題・事業名：大市場向け新品目花きの探索と長期生産技術の確立

予算区分：県単

研究期間：平成10～12年度

関連情報等：なし